

次世代育成支援対策地域行動計画(後期計画)の策定を進めています

町では、これからのまちづくりを担う次世代の育成を目的に、前期(平成17年度～平成21年度)の取り組み状況や町の実情を踏まえ、平成22年度から平成26年度を期間として次世代育成支援対策地域行動計画(後期計画)の策定に取り組んでいます。

後期計画の策定にあたり、住民の皆さんの意見や要望が反映されるようにアンケート調査を実施しましたので、その一部を紹介します。

福祉課 ☎84-0316

◆子どもの人数・日常の育児状況

「理想的な子どもの人数は何人か」の設問に対し、就学前、小学生の親ともに2・7人、持つつもり的人数は2・1人と理想の人数よりも持つつもり的人数のほうが少なく、その最大の理由は「子育てや教育にお金がかかるから」の割合が大きいものの、育児の

悩みについての設問では「経済的な不安や負担」よりも「子どもの接し方・意思疎通・しつけ」に悩みを持つ割合が高い結果になりました。さらに日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサービスは、就学前、小学生の親ともに「子どもを遊ばせる場や機会の提供」「親のリフレッシュの場や機会の提供」を望んでいる割合が高い結果になりました。

◆放課後子ども教室について

学校の空き教室などを利用した放課後子ども教室の認知度は約2割と低いものの、今後放課後子ども教室を開設してほしいと回答した方は約8割でした。また、小学校4年生以降の放課後の過ごし方では「放課後子ども教室を利用したい」が43・9割と最も高く、次いで「クラブ活動や習い事をさせたい」が32・4割という結果でした。

◆子育てと仕事の両立に必要なこと

「夫が家事や育児を分担し協力すること」を6割以上の方が、「勤務時間の短縮など子育て者に配慮した労働条件・制度があり、実際活用できる職場環境であること」を約4割の方が必要だと考えています。その一方で、父親は「残業などが多く、仕事を優先せざるを得ない」ため、子育てにかかわりづらいとの回答も約8割を占めていました。

◆今後の予定

現在、アンケート調査の結果を踏まえ、町内の子育て関係団体、保健・福祉・企業関係者、教育関係者、公募住民の方などで構成される開成町次世代育成支援対策地域協議会で、計画内容の審議を行っています。

今後は、更に広く意見をいただくため、パブリックコメントを実施し、町民の皆さんの意見を参考にしながら、22年3月末に後期計画を策定する予定です。



アライズ・かいせい

第2回

2010年世界農林業センサスを2月1日現在で実施します。この調査は、5年に一度、全国一斉に農林業や農山村の実態を調べるもので、農林業の国勢調査ともいわれています。国や地方の農林業施策の企画・推進に役立つたいせつなものです。農家の皆様のご協力をお願いします。

企画政策課 ☎84-0312

田の面積 176ヘクタール ~横浜市のMM(みなとみらい地域)と同じくらいの広さです~

■小さい町に広がる水田

県内市町村で面積最小の開成町。でも、水田面積は県内市町村で8番目の広さです。県内市町村の田の面積は、1位平塚市(777畝、面積の約11%)、2位小田原市(550畝、面積の約5%)、3位厚木市(522畝、面積の約6%)、7位横浜市(180畝、面積の約0・4%)、8位開成町、9位藤沢市(146畝、面積の約2%)です。開成町の田は、町面積の約25%を占め、横浜市のみなとみらい地域(約186畝)とほぼ同じ広さです。

町の農業 農家の取り組み

開成町一帯は江戸時代からおいしいお米の産地として知られています。高齢化や後継者不足などが問題となつていますが、開成町内では20代の就農者2人が、それぞれ有機農業と洋ラン栽培にこだわりを持って取り組んでいます。また、緑茶の需要が高まるなかで、数軒の農家が集まって茶の栽培を始めており、米の転作作物として注目されています。

このほか町の地産地消の取り組みとして、瀬戸屋敷と駅前第2公園で、日曜朝市を開催しています。町内で採れた新鮮で安心安全な農作物を農家が直接販売するこの朝市は、転入者の多い町南部地域の皆さんに好評を得ています。

地元食材による「郷弁」

1月23日に福祉会館で「郷弁フェスタ」が開催されました。(最終ページ「まちかどトピックス」で紹介)これは、町の産業を活性化する農工商連携プロジェクトのひとつです。郷弁とは、開成町産のお米と地場産の野菜を中心にしたおかずを組み合わせたお弁当で、町の名物になるよう取り組みを続けています。

北部地域を中心とする町内の水田は、6月になると約5千株のアジサイが咲き誇り、町最大のイベント「あじさい祭」の会場になります。訪れた多くの方が観賞される水田に映えるアジサイ。この素晴らしい景観は、農家の日々の管理によって保たれています。

平成21年度宝くじ助成事業 地域の緑化推進、備品整備ができました

(財)自治総合センターのコミュニティ助成金(宝くじ収益金)を活用し、自治会の緑化推進と備品整備を行いました。

◆緑化推進コミュニティ助成事業

宮台自治会と河原町自治会で、緑化推進コミュニティ事業を実施しました。草花を通じた自治会員のコミュニティ活動の場として、自治会内に花壇などを設置し、多くの草花や、ドウダンツツジやアジサイなどの低木を植栽しました。



宮台自治会

財団法人自治総合センター 助成金額

|                |            |
|----------------|------------|
| 緑化推進コミュニティ助成事業 | 2,000,000円 |
| 一般コミュニティ助成事業   | 2,500,000円 |



宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。



河原町自治会

この事業には、両自治会から多数の皆さんが参加され、緑化の推進とともに、相互の交流を深める良い機会になりました。

◆一般コミュニティ助成事業

岡野、金井島、下延沢、パレットガーデンの各自治会では、地上デジタル放送への移行に備えた対応型テレビや自治会館で使用するイスやテーブルなど、自治会活動に必要な合計55点の備品を整備することができました。

○岡野自治会

液晶テレビ、DVDプレーヤー、カラオケ、マッサージチェア、草刈機、剪定機、広報掲示板

○金井島自治会

液晶テレビ、ワイヤレスアンプ、チューナー・マイク、テーブル

○下延沢自治会

液晶テレビ、冷蔵庫、ワイヤレスアンプ・マイク、紅白幕、車いす

○パレットガーデン自治会

折りイス、収納台、セミテーブル、メガホン、書庫、台車、テント



企画政策課

☎84-0312

◆女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業

町では、女性消防隊の育成強化を図るため(財)日本消防協会が宝くじ助成金(財)自治総合センター)により実施する「女性消防隊による安全で災害に強い地域づくり推進事業」の助成を受けて、軽可搬消防ポンプなどの備品を購入しました。

《整備備品一覧》

軽可搬消防ポンプ、操法用皮手袋、操法用脚絆、ヘルメット、広報用のぼり旗



軽可搬消防ポンプ

環境防災課

☎84-0314